

学校図書館教育グループ研究会

グループ員：小木曾 笑子 (池尻小学校) 林 美幸 (笹原小学校)
太田 裕子 (瑞穂小学校) 緒方 麻美 (花里小学校)
大石 愛弓 (昆陽里小学校) 上野 晴子 (摂陽小学校)
坪木 麻侑子 (鈴原小学校)

担当指導主事：塩家 崇生

キーワード：学校図書館 読む力 対話的な学習 読むために書く

1 研究テーマ

「自ら本を手にする子どもを育てるために」

2 研究内容

(1) ブックリスト研究

子どもたちにとって魅力的な本を学校図書館に置くことで、子どもたちと学校図書館をつなぎたいと考える。そのためには、教師自身が多くの本を知り、蔵書の選定にあたる必要がある。今年度は、公文の推薦図書（高学年）と読売KoDoMo新聞の「本屋さんイチオシ100選」に紹介されている本を輪読し、交流を行った。

(2) 「書くこと」を通して「読む力」を高める授業づくり

教科等研修講座（小学校国語科）に参加し、「読むこと」の授業づくりについて、理論と実践をふまえて意見を交流した。

① 教科等研修講座（小学校国語科）

次期学習指導要領の国語科に示された学習プロセスや言語活動について知り、「読むこと」の単元をどのように構想するべきかを考えた。具体的な実践「海のいのち」（光村図書6年）の紹介によって、「読みを深めるために書くこと」の効果を実感することができた。

② 授業研究

瑞穂小学校 太田 裕子主幹教諭による第4学年国語科「読んで考えたことを話し合おう」の授業を参観し、「読むこと」の授業における対話的な学習の在り方について学んだ。「ごんぎつね」（光村図書4年下）を教材に「一人ひとりが他者の考えと対話し、自分の考えを深めるための交流」「書くことに始まって、書くことで自分の読みを収める」「新美南吉の作品を読む」の3つの活動を軸に、他者との対話・テキストとの対話・自分自身との対話をしながら児童相互の思いの絡み合いを大切に授業が展開されていった。子どもたちが互いの読みを聞き合い、自分の読みを深めていくことが感じられた。



3 成果と課題

(1) 成果

- ① 今年度は、新たに「読売KoDoMo新聞」に掲載されたブックリスト「本屋さんのイチオシ」を使用して研修を行った。書店員さんが選者となっており、教師とは違った視点からの推薦図書に触れることができた。
- ② 輪読した本の活用方法について意見交流し、実践に取り入れることができた。

(2) 課題

- ① 各校の実態に応じた「子どもたちに読んでほしい本リスト」の作成。
- ② 「読書記録」についての検討。